

すくわくプログラム推進事業実践報告書

所在地	東京都新宿区新宿 6-27-56 新宿スクエアビル 2 階
施設名	フロンティアキッズ新宿

1. 活動のテーマ

<テーマ>

もののかたち

<テーマの設定理由>

モンテッソーリ教育理論の元、乳児期から型はめパズルや円柱差しなど、図形に関連する教具を導入し、形や体積の違いを感覚的に得られる環境が整っている。また、戸外活動を通して、自然の中で様々な形に触れられる機会を設けている。

幼児クラスでは、落ち葉を集める中で「この葉っぱは丸い」「これは細長い」と形の違いに自然と気づき、比べ合う様子が観察され、もののかたちへの強い興味関心があると判断した。

2. 活動スケジュール

- | | |
|-----|---|
| 毎月 | ・モンテッソーリ教具で様々な図形に触れる |
| 4月 | ・図形に関する教具の提示を受け、興味を持つ |
| 7月 | ・幾何たんすの教具を通して、平面図形の名称やその特徴を知る |
| 8月 | ・幾何学立体の教具を通して、立体図形の名称やその特徴を知る |
| 9月 | ・帯状の紙で三つ編みを行う
・鉄製はめこみの教具で、様々な図形を描いて楽しむ |
| 10月 | ・落ち葉を収集し、形を比べる |
| 11月 | ・葉のたんすの教具で、葉の形の種類を知る |
| 1月 | ・幾何科学立体の教具を通して、立体図形の特性を感じる |
| 3月 | ・顕微鏡を使って、微小な物の形を見る |

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(0歳児～2歳児)

- ・さまざまな図形の違いに気付くきっかけとなる型はめパズル、“落とす”教具
- ・感覚的に体積の違いを感じられる円柱差し、ピンクタワー、茶色い階段等の教具

(2歳児～)

- ・平面図形、立体図形の種類やその特徴を知るための教具
- ・収集した落ち葉と照らし合わせることで、タイプ分けするための教具
- ・微小な物の形や構造をみるための顕微鏡

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・感覚的に図形に触れられる教具を低年齢の内から用意、様々な図形の違いに気付く
- ・形の違いだけでなく、面積や高さなど大きさの違いを感じられる教具に触れる
- ・幾何たんすや幾何学立体を通して、図形の名前を知り、 trying してみる
- ・幾何たんすや幾何学立体を通して、図形ごとの特徴や性質を知る
- ・落ち葉を収集し、形の違いを楽しむ
- ・収集した落ち葉を、葉のたんすを通してタイプ分けする
- ・顕微鏡を使って、微小な物の形やその構造を観察する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・0歳児や1歳児の活動では、型はめパズルや“落とす”教具を通して、形の違いに気付く姿が見受けられた。枠や穴の計上に合わせた図形をはめこむことができていた。自分でできると嬉しそうにし、何度も繰り返していた。
- ・四角形や三角形だけでなく、台形や六角形、楕円など複雑な図形も知った。円や正三角形、正方形に比べ、楕円や直角三角形、台形などに対して子どもたちは「へんなかたち」と言い、その歪さを感じた様子だった。
- ・帯状の紙で三つ編みや、格子編みを行い、完成すると同じ図形が綺麗に並ぶ様を見て「きれいにできた」と満足そうだった。
- ・落ち葉収集では、近隣の広場や公園など、様々な場所へ足を運び、葉の形の違いを楽しんだ。2歳児は「細い葉っぱは(先が)ちくちくするよ」と発言があった。
- ・顕微鏡は、布や紙の表面を見た。「水はどう見えるかな」と期待感を持って観察していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

月が「円」から「楕円体」へとその実像を変えたように、アゲハチョウもまた「幼虫・蛹・成虫」と劇的に姿を変えていきます。固定された知識ではなく、「見る角度や時間によって形が変化する」という三次元的な不思議を感覚的に捉えました。天体の形も、蝶の変態も、すべては自然界の法則に基づいた機能的な美しさです。この「生命の幾何学」を自分の目で発見したときの驚きこそが、未知の世界を探究し続ける「コスミック・エデュケーション」の原動力になるのだと思いました。

すくわくプログラム推進事業実践報告書

所在地	東京都新宿区新宿 6-27-56 新宿スクエアビル 2 階
施設名	フロンティアキッズ新宿

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界

<テーマの設定理由>

新宿という地域柄もあり、外国にルーツのあるご家庭が園に在籍していることが多い。職員にもベトナムやインド、韓国にルーツのある職員が在籍している。また戸外活動でも、園の周辺で外国の方と出会う機会が多い。

会社全体でもグローバル教育を推進しており、そのノウハウがある。地球儀や世界地図等、本テーマに活用できる教材が保育室に常設されている。

子どもたちは「国旗」に興味を示し、国名を覚え、国旗のぬりえを楽しんでいる。

また英語の歌に親しみを持ち、友達と一緒に楽しんで歌っている。

英語学習を通して、外国では日本語と異なる言語が話されているということを知る良い機会になると考えた。

4月からネパール人の姉弟が入園し、在園児からは「どこ(の国)からきたの?」と質問する姿があり、関心が高まっている。

2. 活動スケジュール

毎月

- ・子どもの興味や発言をもとに、世界地図、地球儀、国旗カード、絵本等を保育室に常設し、日常の遊びの中でいつでも手に取れるよう環境を整えた。
- ・世界の料理を楽しむ日を設け、給食を通して食文化への関心を広げた。
- ・モンテッソーリ教具や地図教材を活用し、子どもが自分で見比べたり、選んだり、試したりできる時間を設けた。
- ・子どもたちが興味を示したあいさつや歌、国名等について、保育者が日常の会話や遊びの中で取り上げ、動画教材や外部講師を活用し活動を展開した。

6月

- ・地球儀や世界地図に触れ、陸と海があることを知り「海が多い」「日本はどこだろう」等の気づきを共有しながら、世界の広さや地理への関心を深めた。

7月

- ・世界地図パズルを取り入れ、国や大陸の位置関係に興味を持てるようにした。子ども同士で相談しながら、形や場所を確かめる姿を支えた。

8月

- ・国旗に関する制作活動を行い、色や形の違いに気づきながら、関心のある国を自分で選んで表現する機会とした。

9月

- ・「Vietnam Day」を実施し、衣装、文化、食べ物、ことば等に触れた。活動後は関連する写真や絵本、素材を追加し、日常の遊びへとつながるようにした。

12月

- ・クリスマス会では、日頃親しんできた英語の歌やあいさつの中から、子どもたちが自分たちで選んだ内容を発表する機会を設けた。英語の歌詞をフレーズ毎に意味を理解した。

1月

- ・観劇会でさまざまな国やことばに触れた後、保育室でも関連するあいさつや衣装、地図等を取り上げ、再現遊びや会話へ広げた。

2月

- ・地球儀と太陽に見立てたライトを使った実験を行い、自転・公転・昼夜・時差について、目で見て試しながら太陽との関係について考えられるようにした。

3月

- ・1年間の記録写真や子どもの言葉をもとに活動を振り返り、興味の広がりや深まりを子ども、保護者、職員間で共有した。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・地球儀、世界地図、世界地図パズル、国旗カード、各国の写真や絵本等を保育室内に設置し、子どもが興味を持った時に自ら手に取って見たり比べたりできるようにした。
- ・子どもが関心を示した国や文化について、すぐに確かめたり話題にしたりできるように、地図、国旗、写真資料を関連付けて掲示した。
- ・「Vietnam Day」に向けては、ベトナムの民族衣装、楽器、ランタン、食文化に関する資料等を準備し、見たり触れたりしながら違いや共通点に気づけるようにした。
- ・世界のあいさつや歌への興味が高まった際には、絵本、ことばカード、音声や動画教材等を追加し、日常の遊びの中で繰り返し親しめるようにした。
- ・外部講師による活動を取り入れる際には、事前に保育者が子どもの関心を整理し、活動後には子どもの発言や反応を記録して、継続して遊びや対話が深まるよう環境を再構成した。
- ・地球の自転・公転・時差に関する活動では、地球儀、ライト、人物カード等を準備し、子ども自身が位置を変えたり動かしたりしながら試せるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

保育者は「世界」をテーマに、日常の遊びの中から探究が広がるよう活動を進めた。

- ・英語の歌や世界のあいさつについては、子どもたちが日頃から親しんでいた歌やことばをもとに、保育者が日常的に会話の中で取り上げた。動画教材や外部講師による活動は、子どもたちが興味を持っていたあいさつや歌、文化について理解を広げるため活用した。
- ・地球儀や世界地図に触れることで、地球には陸地と海とがあることを知り、それぞれの大陸に名前があることや、国々の地理について触れる。
- ・世界地図パズルを通して、それぞれの国の位置関係を知る。
- ・「Vietnam Day」でベトナムの文化について興味を持ち、日本文化との違いを感じる。
- ・「クリスマス会」にて英語活動の成果発表を行う。
- ・「観劇会」で「世界」をテーマにした劇を楽しむ。
- ・地球儀とライトを使って、自転・公転・時差が視覚的に分かる実験を行う。
- ・「平和」に関する絵本の読み聞かせをする。
- ・一年間の活動についてスライドショーで振り返る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・地球儀を見ながら「うみがおおきいね」「日本はどこ？」と話す姿があり、保育者の問いかけをきっかけに、周囲の子どもも集まって一緒に確かめていた。
- ・世界地図パズルでは、「ここかな」「ちがう、こっちじゃない？」と子ども同士で相談しながら取り組む姿が見られた。
- ・「Vietnam Day」では、民族衣装やランタンを見て「きれいだね」、国旗を見て「中国と似ているね」、フォーを食べて「うどんと似ている」といった発言があり、子どもたちなりに違いや共通点を見つけていた。
- ・英語の歌やあいさつに触れた後には、子ども同士でまねし合ったり、「ほかにはある？」と尋ね合ったりする姿が見られた。
- ・観劇会后には、さまざまなことばの「こんにちは」を楽しそうに繰り返し、保育者が地図や絵本を示すことで、ことばと国とを結び付けて考える様子があった。
- ・自転、公転、時差の実験では「(地球の)半分が暗くて、半分が明るい」と気付く子がいた。
- ・「平和」に関する絵本の読み聞かせでは、年少児が「みんな友達がいいよね」「戦争はいやだね」と発言していた。



5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

地球について陸や海、大陸や国について触れ、国のアイデンティティがそれぞれあることを知った。国により言語が異なり、今回は英語に触れた。

子どもたちは英語や異文化との交流を通して「違いの面白さ」に触れ、他者を受け入れる心を育てるとともに、自分の考えをしっかりと伝えられる力を身につけていく。

言葉を通して人とつながり、相手を理解し合う中で信頼を築きながら、子どもたちは自立し多様な人々と関わって世界へ羽ばたいていく。そして、その経験が未来をより良く平和な場所に変えてくれるであろうと思った。

すくわくプログラム推進事業実践報告書

所在地	東京都新宿区新宿 6-27-56 新宿スクエアビル 2 階
施設名	フロンティアキッズ新宿

1. 活動のテーマ

<テーマ>

数

<テーマの設定理由>

モンテッソーリ教育理論の元、数について様々なアプローチで触れることのできる教材が整備されている。発達段階に応じた教具が系統的に配置され、園児が自ら教具を選び、主体的に数の概念に触れることのできる環境になっている。子どもたちは普段から数に関する活動を楽しんでいる。

活動を通して園児たちが数の面白さに自然と気づく姿が見られた。特に年長児を中心に、友達と一緒に数を数えたり比べたりしながら楽しむ様子が見受けられ、数への強い興味関心が育っていると判断した。

2. 活動スケジュール

- | | |
|-----|--|
| 毎月 | ・モンテッソーリ教具で数について興味を持ち、理解を深める |
| 4月 | ・数に関する教具の提示を受け、興味を持つ |
| 5月 | ・数を数えたり、数字を書いたりする活動を取り入れる |
| 6月 | ・数詞(いち、に、さん)、数字(1,2,3)、数量(○、○○、○○○)を一致させる |
| 7月 | ・時計の教具を通して、生活に身近な数に触れる
・100並べの教具を通して10進法に触れる。 |
| 8月 | ・連続数の活動を通して数の規則性に気付いたり、数量を視覚的に感じたりする |
| 10月 | ・遊びや教具を通して四則計算に挑戦する。 |
| 2月 | ・ここまで書き溜めた連続数のロール紙を廊下いっぱい広げてみる |
| 3月 | ・一年間の活動の振り返りを行う |

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(0 歳児～2 歳児)

- ・数をマッチングさせる教具(例：3つの穴に3つの球を1つずつ収める→穴と球の数が一致)
- ・感覚的に感じられる教具(例：ケースの中に球が1つ入っているときよりも、複数入っているときの方が重い。空っぽは軽い)

(2 歳児～)

- ・数詞、数字、数量それぞれの要素に触れられる、あるいはそれらの要素に複合的に触れられる教具
- ・時計や計りなど、生活に身近な数字の教材・教具
- ・連続数や100並べなど、数の規則性や連続性を感じられる教具

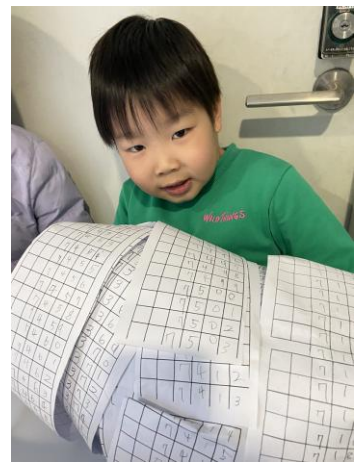
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・感覚的に数量に触れられる教具を低年齢のうちから用意し、数量感覚を養う
- ・数量の変化に伴う、視覚的・感覚的な違いを感じる(例：2個より5個の方が多し・重い)
- ・数詞を言ってみる
- ・数字を書いてみる
- ・数量を比べてみる
- ・数詞、数字、数量の一致を図る
- ・時計や計りなど、生活に身近な数に触れる
- ・100並べや連続数の活動を通して、数の規則性や連続性を感じ、楽しむ
- ・連続数のロール紙を廊下いっばいに広げることで、数量の大きさを視覚的に感じる
- ・0や無限の概念に触れる
- ・遊びや教具を通して、四則計算に挑戦する。
- ・一年間の活動を振り返る

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 0歳児や1歳児での活動では、数の概念が理解されているというわけではないが、数量感覚の下地の形成に繋がっていると期待したい。
- ・ 1歳児クラスでは列車の玩具を何個も連結させて「いっぱい」と嬉しそうに言う姿が見られた。「いっぱいだね」と反復するだけでなく、「ながいね」「たくさんつながったね」「1,2,3,,,6個もつながったね」と違った言語表現で数量を示したり、保育者が一緒に列車を作ることで、子ども自らが「先生の列車よりも長いね」と他の数と比較することで数量の違いを感じられるようにした。
- ・ 2歳児以降では数字を書く、数詞を言うといった活動だけでなく、数字を指差ししながら対応する数詞を言うことで、数字と数詞の一致を図ったり、数字の書かれた箱に、その数字の示す数量だけ棒を入れる活動で、数字と数量の一致を図ったり、といった活動を行った。「0」と書かれた箱には棒は入れないということを通して、0の概念を知り、子どもからは「0は空っぽだ」と発言があった。
- ・ 100並べの活動では、1列に10ずつ数字が並べられ、100まで並べ終わると「きれいにできた」と10進法の整然とした美しさを感じた様子だった。
- ・ 連続数の活動では1から順に書き続けた数が8000を超えた。「今年中に10000を目指す」と言う姿もあった。中には「これ、いつまでやればいいの?」と「無限」を感じている様子の子もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもが数字を書き続ける中で「いつ終わるの?」と疑問を持ち、数はどこまでも続き、0より小さい数もあることから「数には始まりも終わりもない=無限」という概念に出会いました。

「無限」とは目には見えないがどこまでも広がる世界であり、一方で私たちの命は始まりと終わりのある「有限」。だからこそ、今この瞬間や時間はかけがえのない大切なものだということを子どもと共に大人も気づきました。